



子供のスポーツあれこれ

◎「野球」「サッカー」「バスケットボール」「水泳」「剣道」など、子供たちはそれぞれ自分の好きな種目のスポーツを習ったりチームに入ったりして、日々スポーツを楽しんでいます。「親としては、このままずっと少しでも長く続けてほしいと願うばかりです。」とは、よく保護者の方から聞く言葉です。

◎ところが、小学校高学年から中学校あたりにいる子供たちの中に、今自分が取り組んでいるスポーツに迷いや悩みが出てくる場合があります。運動能力や技能が優れていてもです。

◎「サッカー」を例にあげます。キック力、ボールコントロール力、走力が優れているだけでなく、瞬時に全体の状況を冷静に判断する力、味方や相手選手の意図や動き方を予測する力、それらを素早く判断して状況に応じたポジショニングをする力などが必要になります。小学校低、中学年くらいまではよいのですが、学年が上がるにつれ、ゲームの中で要求されるレベルが高くなってきます。能力や技能がどんなに優れていても、チームメイトとの関係がうまくいかなくなったり、「うまくできない」と悩むようになってきます。

◎学年が上がるほど「自分のタイプを自分で知る」ことが大切になります。能力や技能が高くても、ゲームの中でのチームプレイやチームワークを大切にした行動が苦手な場合は、種目を変更することで道が開けることがあります。中学校までサッカー一部にいて、高校から陸上長距離に転向して活躍した選手もいます。チームプレイが苦手でも、走力と持久力が大いに生かれますからね。陸上競技の他、テニス、卓球、水泳、剣道などがチームプレイよりは個人競技に近いでしょう。サッカー、バスケットボール、バレーボールなどはチームプレイの力がかなり要求されます。野球はチームプレイが大切ですが、ポジションの役割や動きが明確なので、個人競技の要素も入っているでしょう（特に投手は）。

◎子供時代はいろいろなことにチャレンジし、いろいろなことを経験してほしいです。三日坊主でもかまいません。その中で「自分のタイプ」をだんだんと理解するようになり、「自分のタイプ」を前向きに大いに生かそうとするようになってほしいと願っています。

※「こころのお便り」は、情緒通級の現役教諭が原稿を書き、深大出版で編集しています。

子育てに悩む保護者の方、児童を理解したい先生等どなたでもプリントしてお使いいただけます。